

10月25日 映画『アイリメンバーマーミを親て慢性疲労症候群を考える』参加者の感想

主催：日本の医療を守る市民の会 東京保険医協会 協力：慢性疲労症候群をともに考える会

女性 39歳 CFSについて「聞いたことがあった」

私自身、まるで種類が異なりますが持病があります。
病気を理解してもらえない辛さは少しですがわかる気がします。
日本でも38万人くらいは患者がいることも初めて知りました。
正直・・・CFS は名前は聞いたことはありましたが、もっと知識を増やし理解を広めたいです。そして、周囲の友人や知人達にも知らせたいです。

男性 47歳 CFSについて「初めて知った」

今回、妻の誘いで参加しましたが、正直軽いショックを受けました。
本症候群について、全く知識・理解がありませんでしたが、患者の方々の苦悩を思うと、胸も痛みました。
無知な者が軽率に申し上げられる事ではありませんが、「タホ湖」の集団発生に何か原因があるのでは・・・？ とも感じました。
今後、本症候群に、感心を持っていきたいと思えます。
病気の原因が早く解ること、病名が変わる事を切望します。

男性 60歳 CFSについて「初めて知った」

原因のわからない病気が、いまだ多く有るのだらうと、改めて認識しました。
原爆の「ブラブラ病」と似ているのが気になりました。

男性 61歳

慢性疲労症候群という病気は、今回初めて知りましたが、今回映画を親て、篠原さんのお話、キム監督のお話を伺い、この病気のこと、患者さんの苦勞、この病気や患者さんに対する偏見を知り、深刻な問題だと感じました。原因解明や治療法の開発、社会でのこの病気や患者さんに対する偏見をなくす必要があると思います。
病名の改称も含めて・・・。

女性 医師 CFSについて「くわしく知っている」

映画はととてもよく出来ていて、集団発生例や個別のケースの辛抱強いフォローがされていて、とても良いキャンペーンだと感じた。
しかし、私は医師として十数年前に初めてCFSを聞いたが、現在でもその名称と原因や治療については、全然変わっていないのだと感じた。

そのもどかしさ、全身を改にした新しいカテゴリーの疾患として見るのは
大きいチャレンジだと思う。
キムさん・篠原さんの活動は立派。

男性 32歳 CFSについて「はじめて知った」

女性 52歳 CFSについて「はじめて知った」

怠け病と間違えられるような CFS、21年間も寝たきり、初めて知った。
偏見で苦しんでいる人も多いと思うので、できるだけ多くの人に伝えたい。

男性 57歳 CFSについて「聞いた事があった」

多くの患者がおられる事を知って、びっくりです。
また・・・原因も解らず、治療法も無い事を初めて知りました。
週間金曜日で紹介されてはいかがですか・・・？

男性 43歳 CFSについて「聞いたことがあった」

健康な人が患者さんの苦しみや痛みについて理解せず、偏見をもって見たり
発言したりすることが、より一層、患者さんを苦しめ、社会の取り組みも妨害
することになると感じました。
難病の研究の為に、もっと社会の財源が使われるべきだと思いました。

男性 67歳 医師 CFSについて「聞いたことがあった」

もう少し何か解ると、色々な分野の専門家が、何かのきっかけで、感心を持つ
人が急に増えだして、研究が進むだろうと思う。
もう少し……………。

女性 63歳 CFSについて「聞いたことがあった」

私の義理の姉が、20年以上前にこの病気の疑いと診断され(最初は、神経系の
病気とも言われましたが、その後 CFS と)今も闘病中です。
時々、長電話をして様子を聞いています。話すとき気がほぐれるそうです。
体調の良い時は、車を運転して病院へ通ったり家事仕事できますが、体調の
悪い時は、寝たきりになります。
大変重い患者さんがおられるのにびっくりしました。病気を知ると、家族との
話し合いも明るくなり、接し方も変わると思います。田舎に帰ったとき、まわりの
人達に、今日伺ったことを伝えたいと思います。